



制御事業グローバルNo.1へ構造改革 アウトソーシングでIT部門の企画力を強化

「NSFITOS」でITインフラの品質向上とコスト削減を実現

背景

中期経営計画に基づくビジネス構造改革の一環として、IT部門の体制を変革。IT戦略の立案とIT企画の推進業務へのIT人材のシフト、ITインフラの最適化、災害対策強化、ITサービス品質の向上などを実現したいと考えた。



横河電機株式会社
経営管理本部
情報システム部
部長
北原 卓氏



横河電機株式会社
経営管理本部
情報システム部
ICT企画推進Gr.
グループ長
林田 智也氏



横河電機株式会社
経営管理本部
情報システム部
ICT企画推進Gr.
野口 龍太氏

YOKOGAWA

横河電機株式会社
本社：東京都武蔵野市中町2-9-32
創立・設立：1915年・1920年
資本金：434億円（2015年3月31日現在）
売上高：連結4058億円（2015年3月期）
従業員数：単独2871名/連結1万9601名（2015年3月31日現在）
グループ会社：子会社84社、関連会社3社（2015年3月31日現在）

ソリューション

新日鉄住金ソリューションズが提供する包括的ITアウトソーシングサービス「NSFITOS」を選択して、NSSOL新鋭データセンターとクラウド(absonne)の活用を推進。ITインフラ運用業務は外部委託する。

成果

IT部門がIT戦略の立案とIT企画の推進に集中し、NSSOLが運用を担う新たなIT部門としての体制を構築した。運用リエンジニアリングで品質向上とコスト削減を実現。今後も、持続的に各種施策を推進していく。

ビジネス構造改革の一環としてITアウトソーシングを検討

生産制御システム、伝送器などの制御事業におけるグローバルNo.1カンパニーを目指して事業拡大を推進する横河電機。2011年度から開始した中期経営計画のもと、本社機能の最適化をはじめとする幅広いビジネス構造改革を行ってきた。その構造改革の一環として同社IT部門が策定したIT戦略「Global IT Strategy」では、IT戦略を立案/IT企画を推進する業務へのIT人材のシフト、ITインフラの最適化、災害対策強化やITサービス品質向上などを目標に設定。その実現に向けて2012年、運用移管（ITインフラ運用業務の外部委託）、IT機能統合（クラウド技術、外部データセンター（DC）の活用によるITインフラの最適化）、資産移管（クラウドサービスへの移行）、要員移管（運用人材の外部化）の4領域にわたる要件をまとめてIT事業者に提案を求めた。

NSSOLの「NSFITOS」を選択、同社DCやクラウドも活用

横河電機は複数の事業者から最も高い水準で要件に対応した新日鉄住金ソリューションズ（以下、NSSOL）をITパートナーに選択。IT部門の体制を抜本的に見直すため、NSSOLの包括的ITアウトソーシングサービス「NSFITOS」（エヌエスフィットス）をベースにし、NSSOLのDCやクラウドITインフラサービス「absonne Enterprise Cloud Service（以下、absonne）」（アブソンヌ・エンタープライズ・クラウド・サービス）などを活用したITインフラの刷新を決める。プロジェクトは2013年7月にスタート。社内および災害対策センターにあったオンプレミス環境のサーバー約1000台については、NSSOL DCへの移設、仮想化環境への統合などを段階的に実施している。運用業務では、標準化や自動化などの運用リエンジニアリングを行い、品質向上とコスト削減を実現した。

IT部門がIT戦略の立案とIT企画の推進に集中する新体制を構築

2015年4月から横河電機は新体制で業務を開始。運用業務に携わっていたIT人材は運用のプロフェッショナルとしてNSSOLが受け入れ、本社IT部門の人材はIT戦略の立案とIT企画の推進といったコア業務に集中する体制を構築した。

横河電機は今後も、新中期経営計画「Transformation 2017」の達成に向けて各種施策を強化していく。ITインフラの最適化についてはabsonneを活用して2018年まで持続的に、仮想化統合による物理サーバーの削減およびIT資産のオフバランス化を行い、ITサービスの品質向上とITコストの削減を実現する。また、事業継続性向上のため、NSSOL 災害対策センターの活用、およびabsonneの機能によって災害対策の強化を加速していく計画である。

Key to Success

横河電機がITアウトソーシングに取り組んだ背景は、中期経営計画に基づいて実施した構造改革である。

経営管理本部 情報システム部 部長の北原卓氏は「IT部門をIT戦略の立案やIT企画の推進に集中する体制へ変革することが急務でした」と語る。

ITアウトソーシングのパートナーとして選定したのがNSSOLである。

北原氏は選定理由について「当社は売上高の約7割を海外事業が占め、多くのシステムがグローバルに利用され、24時間365日稼働することを要求されています。また、日本では地震などに対する備えも重要です。そういった状況において、実績はもちろん災害対策強化を含む長期的な将来ビジョンを持っている点を評価しました」と語る。

経営管理本部 情報システム部 ICT企画推進Gr. グループ長の林田智也氏は「システムの安定稼働を強化するために、より安全かつ確実にITインフラを運用できる堅牢なデータセンターを持っているかが決め手の一つになりました。また、IT組織の構造改革を推進するため、中期経営計画の区切りとなる2015年3月末までに新体制で業務を始める必要がありましたが、確実に実現できると明言したのはNSSOLだけでした」と話す。

プロジェクトにおけるNSSOLの働きぶりへの評価は高い。

林田氏は「NSSOLの担当者は、難易度が高いことも、議論を重ねることで理解して対策を検討してくれます。今回の移設では、グループ内でも、システム規模が最も大きくグローバルに利用されている基幹業務システムを最初にDCへ移設するように要望しました。移設計画の中で、最大規模の移設

を最初に行うことはリスクがありますが、基幹業務システムの移設に成功すれば、他システムの移設に対する社内理解も得やすくなります。NSSOLの担当者は議論を通してその利点を理解し、対応してくれました」と振り返る。

現場の仕事にほとんど不満なし 大きな課題にも踏み込んだ提案

経営管理本部 情報システム部 ICT企画推進Gr.の野口龍太氏は「過去のどのプロジェクトも細かなところでは不満が生じていましたが、今回はNSSOLの経験や実績が豊富なため、現場の仕事にほとんど不満がありませんでした。移設作業が体系化されていると感じます」と話す。

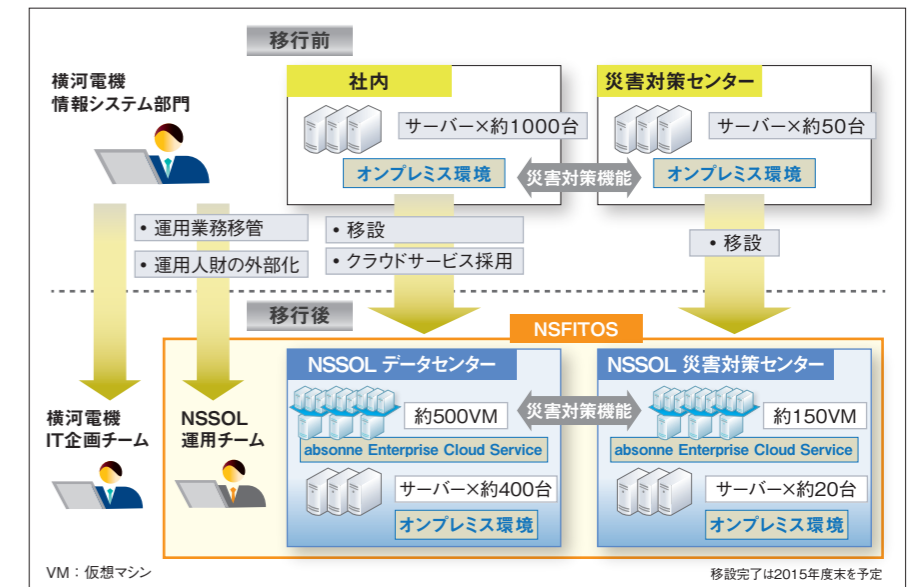
北原氏は「会社として対応を決める大きな課題がプロジェクト中に発生し

ましたが、NSSOLの担当者が踏み込んだ提案を行ってくれました。プロジェクトを共に進めるパートナーとして当社の懐に飛び込んでくるようで、大変心強く感じました」と話す。

2015年4月には新体制でIT業務がスタートしている。林田氏は「プロジェクトは道半ばですが、ITインフラの品質向上とコスト削減を進める土台が整備できました。2014年度に作成した管理指標を基にして2015年度から成果を検証していくとともに、プライベートクラウドの拡充を柱としたITコストの削減、ITサービスの安定稼働を強化する施策を進めます」と述べる。

北原氏は「NSSOLには期待以上の仕事をしてもらったと感じていますが、ITは技術の変化が激しい分野です。これからもNSSOLには様々な状況変化に対して幅広く柔軟な対応を行ってほしい」と語る。

■横河電機が実施した「NSFITOS」によるITアウトソーシングの概要



■コアテクノロジー

ITアウトソーシング、システム移行・移設、標準化、クラウドサービス

■システム概要

- 移設サーバー：約1000台
- ITアウトソーシングサービス：NSFITOS
- クラウドサービス：absonne Enterprise Cloud Service
- データセンター：新日鉄住金ソリューションズ データセンター